

事業名称	舞鶴市世界記憶遺産を活用した地域づくり未来づくり事業		
実行委員会	舞鶴市世界記憶遺産保存活用推進委員会		
中核館	舞鶴引揚記念館		
	住所	〒625-0133 京都府舞鶴市字平 1584 番地 引揚記念公園内	
	TEL	0773-68-0836	FAX 0773-68-0370
	ホームページ	http://m-hikiage-museum.jp	
構成団体	舞鶴市、舞鶴市世界記憶遺産保存活用推進委員会、NPO 法人舞鶴・引揚語りの会、(一社)舞鶴観光協会、京都府立東舞鶴高等学校、舞鶴市立若浦中学校		
事業開始時点の課題分析	<p>舞鶴市は戦後、引揚港に指定され、13 年間で 66 万人を受け入れ、その使命を果たした引き揚げを象徴するまちとして、全国の体験者や家族の熱い要望に応え、「舞鶴引揚記念館」を昭和 63 年に開館した。以来 30 年にわたり「引揚事業」と「シベリア抑留」の史実の継承並びに平和の尊さを発信し続けてきたが、戦後 70 年以上が経過し、戦争を知らない世代が増加する中、記念館の来場者も平成 21 年にはピーク時であった 20 万人の半分以下となった事を受け、舞鶴市では、市民、体験者、有識者等で舞鶴引揚記念館のあり方を検討し、地域のみならず、広く国内においても不可欠な施設として再生するため、“次世代への継承”を主たるテーマに、地域や学校と連携し、「史実の発信事業」や「ふるさと学習」などを全国的に展開している。</p> <p>そのような中、平成 27 年に舞鶴引揚記念館収蔵資料がユネスコ世界記憶遺産登録され、国内外からの注目も高まっており、時期を失することなく、地域、国内にとどまらず、世界と広く連携・ネットワーク化を図りながら事業を展開する必要がある。</p>		
事業目的	<p>「自分たちの生活もままならない時代に引揚者を温かく迎えた」地域の歴史や日本史としての「引揚事業」、そして世界史レベルの「シベリア抑留」など多面性を持つ“世界の記憶”となった舞鶴引揚記念館収蔵資料「舞鶴への生還 1945-1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」を活用し、「引揚事業」・「シベリア抑留」に関する史実の継承を図るため、地域の多様な団体等との連携のもと、全国からの平和学習、教育旅行の誘致などに取り組み、地域文化の振興や未来を担う次世代への平和の尊さの継承を目指すとともに、全国にある旧引揚港と連携した歴史、地域文化の掘り起こしや、世界への情報発信による各国の研究者や関連施設との交流の促進を目指す。</p> <p>また、新たな展開として、舞鶴市では、平成 31 年度に京都市で開催される ICOM(国際博物館会議)京都大会 2019 のプレ大会が平成 30 年度に「ICOM 舞鶴ミーティング 2018」として開催されること、シベリア抑留の縁がつながり、2020 年の東京オリンピック、パラリンピックでのウズベキスタンのホストタウンに決定し、交流がはじまっていることを好機とした運動事業として実施する。</p>		
事業概要	<p>舞鶴引揚記念館が収蔵する世界記憶遺産登録資料「舞鶴への生還 1945-1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」を活用し、歴史を共有する国内の都市と協力した巡回展等を開催することにより、各地域の歴史文化の掘り起こし及び地域の歴史の継承と発信を行うとともに、グローバルな視点で、国際平和を願う歴史文化の交流・発信の拠点として、海外の博物館関係者との交流、連携の強化を図る。</p> <p>①引揚関係都市等との連携による共同企画展開催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後、引揚港に指定された港において、地域の歴史の継承と発信を行う巡回展の実施 <p>②記憶遺産国際ブランドプロモーション事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同企画展開催に合わせ、開催地等においてプロモーションを実施 <p>③国際的な学術交流推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外のシベリア抑留関連博物館等との連携等の実施 ・海外からの引揚者が出港した港の出身の画家が描いた引揚絵画と引揚資料の同時展示や講演等の実施 		
実施項目・実施体系	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携 <input type="checkbox"/>イ ユニークベニチャーの促進 <input checked="" type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館 <input type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信 <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成 <input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発 <input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施 <input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業 <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動 <input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発 		

<p>実施後の成果・効果等</p>	<p>国内の連携事業において、引揚港であった名古屋市と始良市の2会場で開催するなど、国内の各種団体等との連携、協力のもと、2会場併せて約2,100人の市民の方に来場いただくとともに、開催地の報道機関による報道や公共交通機関施設でのプロモーションにより、「シベリア抑留」及び「引揚事業」について、巡回展開催地のみならず近隣市町村等へ広く周知が図られるなど、当該事業の実施により、国内・外における「舞鶴引揚記念館」の「シベリア抑留」及び「引揚事業」に関する史実の継承並びに平和の発信拠点としての役割が明確化された。</p> <p>また、国際的な学術交流推進事業として、海外(ウズベキスタン)の抑留関連博物館との交流事業を行い、日本人抑留資料館 ジャリル・スルタノフ館長と引揚等に関する資料の交換及び市内中学生や学校関係者を含む市民との交流会、スルタノフ館長が制作している日本人抑留者ドキュメンタリー映像「ひいらぎ」の第2作目の撮影を実施された。さらに、中国・葫蘆島港からの日本人引揚を題材にした絵画を制作している中国の画家 王 希奇氏の絵画企画展を開催するとともに語り部を含む市民向けに「引揚」をテーマとしたシンポジウムと府立東舞鶴高校国際文化コースの生徒を対象に講演を実施、加えて、この企画展をきっかけとして中国・葫蘆島市人民政府代表団が来訪され、館内視察や引揚体験者と交流されるなど、「引揚事業」「シベリア抑留」に対する関心・理解度・認知度が向上し、薄れゆく引き揚げの歴史と平和への願いを広く強く世界に情報発信することができ、舞鶴引揚記念館が収蔵する資料の国際ブランドの推進が図られた。</p> <p>2019年9月に京都市で開催される世界141カ国の博物館関係者が参加するICOM(国際博物館会議)京都大会2019のプレ大会として、2018年9月30日に本市において、ICOM舞鶴ミーティング2018が開催されました。この大会において、日本を含む6カ国の研究者による研究発表が行われ、舞鶴引揚記念館の学芸員が登壇し、「ユネスコ世界記憶遺産登録資料」が地域にもたらした活力について発表するなど、世界の博物館関係者と意見交換や情報交換を行い、中核施設である舞鶴引揚記念館を核として各種関係団体や国内・外の研究者、専門機関とのネットワーク化の構築を推進する活動に取り組むことができ、今後の継続的、発展的な事業効果が得られたものと考えます。</p>
-------------------	---

【事業実績】

[事業概要]

舞鶴引揚記念館が収蔵する世界記憶遺産登録資料「舞鶴への生還 1945-1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」を活用し、グローバルな視点で国際平和を願う歴史文化の交流・発信の拠点として、海外の研究者や博物館関係者等への情報発信、交流や連携の強化を図るとともに、国内では歴史を共有する全国の都市と協力した巡回展を開催し、各地域の歴史・文化の掘り起こし及び地域の歴史の継承と発信を行う。

1 国際ブランド推進事業のための各種行事の開催

(1) 引揚関係都市等との連携による共同企画展の開催

世界的にも類を見ない引揚事業において、引揚者を受け入れた引揚援護局開設地及び引揚港としてその役割を果たした名古屋市、始良市におきまして、各開催地の共催・後援のもと、薄れゆく引き揚げの歴史と平和の願いを国内外に発信する舞鶴引揚記念館全国巡回展を開催した。

全国巡回展では、開催地及び周辺市町の住民に忘れかけていた「引き揚げの歴史」や「平和への願い」を思い起こさせ、来場された方は、京城(現韓国・ソウル)からの引き揚げ体験者で「シベリアでの悲惨な様子がわかる。若い人にも知ってほしい」と話すなど、次世代への継承の大切さを発信するとともに地域の歴史・文化の掘り起こしに繋げることができた。

(開催地及び開催期間)

- ①名古屋市展：名古屋市博物館ギャラリー5
平成31年1月8日から14日(7日間)
来場者数：593人
- ②鹿児島展：イオンタウン始良
平成31年2月13日から18日(6日間)
来場者数：1,519人



巡回展各会場の展示風景
(左)名古屋市 (右)始良市

(2) 世界記憶遺産国際ブランドプロモーションの実施

上記(1)の巡回展開催にあたり、引揚港としてその役割を果たした名古屋市、始良市において、薄れゆく引き揚げの歴史と平和の願いを国内・外に発信する「全国プロモーション事業」を実施した。

(実施内容)

「舞鶴引揚記念館全国巡回展」に合わせ、「語り部」による案内説明や開催都市のコミュニティFM放送、新聞社やテレビ等のメディアによる広報及び公共交通機関(施設)



「語り部」による案内説明

等を活用したポスターの掲示やチラシの配布等を行い、ユネスコ世界記憶遺産登録資料及び「シベリア抑留」や「引揚事業」の史実を広く発信した。



テレビ放送やFM放送を活用した「引揚の歴史」と「平和の願い」を発信

(3) 国際的な学術交流推進事業の実施

下記の国際的な学術交流推進事業を実施することにより、「引揚事業」「シベリア抑留」に対する関心・理解度・認知度が向上し、国内・外でのブランド化が図れ、薄れゆく引き揚げの歴史と平和への願いを広く強く世界に情報発信することができた。

① 海外（ウズベキスタン）の関連博物館等との連携等の実施

舞鶴引揚記念館とウズベキスタンの日本人抑留資料館 ジャリル・スルタノフ館長との引揚等に関する資料の交換を行った。ウズベキスタンの日本人抑留資料館からは、日本人がナボイ劇場に従事させられることになった旧ソ連の公文書や抑留に関する絵画を、舞鶴引揚記念館からは、日本での引き揚げの様子がわかる写真や資料を交換し、今後も連携して平和を発信する拠点として取り組みを進めることを確認した。



引揚等に関する資料の交換
(中) ジャリル・スルタノフ館長
(日本人抑留資料館)
(左) 山下美晴館長
(舞鶴引揚記念館)

また、市内中学生や学校関係者を含む市民との交流会では、地元中学生が「ウズベキスタンと舞鶴が一緒になって、引き揚げの史実を継承し戦争のない平和な世界を作りましょう」とメッセージを発信、スルタノフ館長は「山や霧など抑留体験者の手紙で知った舞鶴港の様子を見て、抑留者が母国の風景に涙した気持ちが分かった。抑留者が帰国した時の嬉しさなど様々な感情を映画で伝えたい」と語り、スルタノフ館長が制作している日本人抑留者ドキュメンタリー映像「ひいらぎ」の第2作目の撮影の取り組みを進めるとともに、1作目を上映することにより、「引揚事業」「シベリア抑留」に対する関心・理解度・認知度が向上し、国内・外でのブランド化が図れ、薄れゆく引き揚げの歴史と平和への願いを広く強く世界に情報発信することができた。



(交流会)
ジャリル・スルタノフ館長の挨拶



(交流会)
中学生からのメッセージ発表



日本人抑留者ドキュメンタリー映像
「ひいらぎ」1作目の上映

② 引揚者が海外から出港した港の出身の画家が描いた引揚絵画と引揚資料の同時展示や講演等の実施

中国・葫蘆島港からの日本人引揚を題材にした絵画を制作している中国の画家王希奇氏の絵画企画展の開催と語り部を含む市民向けに「引揚」をテーマにシンポジウムを実施、さらに、この企画展をきっかけとして中国・葫蘆島市人民政府代表団が2018年11月30日に来日・来訪され、館内視察や引揚体験者との交流を実施した。



絵画展の展示風景

(1) 王 希奇絵画展「一九四六」開催地及び開催期間

：会場：舞鶴引揚記念館企画絵画展示室

期間：平成30年9月28日から12月2日

内容：展示絵画説明、「中国からみた引揚等」をテーマにシンポジウムを開催、府立東舞鶴高校国際文化コースの生徒を対象とした講演、体験者等市民との懇談等



シンポジウム 王希奇氏の講話

概要： 中国の画家 王 希奇氏は、「引き揚げる子どもの写真が何度も頭に思い浮かび、子どもが何か伝えようとしていると感じた。敵ではなく1人の尊い命と見るべきと思った」と語るなど、中国人からみた引き揚げを語った。来場した葫蘆島市からの引き揚げ体験者は、「この絵の中に私もいた。葫蘆島港に辿りつけたこの絵の中の人は幸せ。母・弟・妹は辿りつけなかった。涙なくして見られない。若い人は戦争を学んでこの絵を見てほしい」と語った。

また、府立東舞鶴高校国際文化コースの生徒を対象に講演も実施し、「世界の平和のためにできることを考えてください。」と訴え、生徒らは「コツコツと情熱を持って描いたんだと感じた」と話し、今の平和をみんな守っていくことが大事と訴えた。

(2) 葫蘆島市人民政府代表団が来訪

王 力威葫蘆島市長をはじめとする葫蘆島市人民政府代表団（6人）が来訪。舞鶴引揚記念館を視察し、絵画「一九四六」や展示物を鑑賞したほか、葫蘆島市からの日本人引揚体験者と交流した。

概要： 中国・葫蘆島市人民政府代表団（王力威葫蘆島市長他5人）が来訪し、王市長は、「葫蘆島市には日本人の引き揚げを記録する碑がある。来年には引き揚げに関する記念館の建設に着手する計画もあり、資料を収集し、語り継がれていくようなものをつくりたい」と述べ、多々見舞鶴市長は、「引き揚げという歴史を通して、両市の相互理解・友好関係を促進し、両市民の友好交流につなげたい」と語った。来訪団は、舞鶴引揚記念館の視察や葫蘆島市から引揚された日本人体験者の話を傾聴されるなど市民と交流された。



王力威市長葫蘆島市長（左）
と日本人引揚者（右）との交流

[成果・効果等]

舞鶴引揚記念館が収蔵する資料で「ユネスコ世界記憶遺産登録資料「舞鶴への生還 1945-1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」は、世界史レベルの「シベリア抑留」、日本史としての「引揚事業」、そして「自分たちの生活もままならない時代に引揚者を温かく迎えた」地域の歴史としてなどの多面性を持つ資料である。

当該資料を活用して実施した旧引揚港と連携した全国巡回展では、開催地及び周辺市町の住民に忘れかけていた「引き揚げの歴史」や「平和への願い」を思い起こさせ、次世代への継承の大切さを発信するとともに地域の歴史・文化の掘り起こしに繋げることができた。

国際的な学術交流事業については、中国・葫蘆島港からの日本人引揚を題材にした絵画を制作している中国の画家 王 希奇氏の絵画企画展や語り部を含む市民向けのシンポジウム、府立東舞鶴高校国際文化コースの生徒を対象に講演会を開催し、さらには、この企画展を契機に、中国・葫蘆島市人民政府代表団（王 力威葫蘆島市長他 5 人）が来訪され、引揚記念館の視察や葫蘆島市から引揚された日本人体験者の話を傾聴されるなど市民と交流された。

また、ウズベキスタンの日本人抑留資料館 ジャリル・スルタノフ館長との引揚等に関する資料の交換、市内中学生や学校関係者を含む市民との交流会の実施、スルタノフ館長が制作している日本人抑留者ドキュメンタリー映像「ひいらぎ」の第2作目の撮影により、「引揚事業」「シベリア抑留」に対する関心・理解度・認知度が向上し、国内・外でのブランド化が図れ、薄れゆく引き揚げの歴史と平和への願いを広く強く世界に情報発信することができた。

さらに、2019年9月に京都市で開催される世界141カ国の博物館関係者が参加するI COM（国際博物館会議）京都大会2019のプレ大会として、2018年9月30日に舞鶴市において、I COM舞鶴ミーティング2018が開催されました。この大会においては、日本を含む6カ国の研究者による研究発表が行われ、舞鶴引揚記念館の学芸員が登壇し、「ユネスコ世界記憶遺産登録資料」が地域にもたらした活力について発表するなど、世界の博物館関係者と意見交換や情報交換を行い、中核施設である舞鶴引揚記念館を核として各種関係団体や国内・外の研究者、専門機関とのネットワーク化の構築を推進する活動に取り組むことができ、今後の継続的、発展的な事業効果が期待できる。